

大会結果 予選は体育会ホームページ「専大ホーム」から「専大スポーツ」からアクセスしてご確認ください。
専大スポーツ編集部 web (http://sensuppo.web.fc2.com) / 大会結果を配信しています。

専大スポーツ

No. 368

プロ野球ドラフト



森山 4位指名

「一打で決める選手に」

10月20日、プロ野球のドラフト会議が行われ、専大打線の中軸を担ってきた外野手の森山恵佑(商4・星稜高)が北海道日本ハムファイターズから4位指名を受けた。在学生のドラフト指名は2006年の長谷川勇也さん(平19商)福岡ソフトバンクホークス)以来となる。

森山は189センチ95キロの恵まれた体格を持ち、長打力が魅力の左打者。2年次からレギュラーとして出場し、昨春の1部優勝に貢献。今春はベストナインにも選ばれた。

ドラフト当日は、専大伊勢原体育寮で齋藤正直監督ら関係者と指名の瞬間を待った。少し緊張した様子だったが、テレビで名前が読み上げられると笑顔がこぼれ、齋藤監督とがっちり握手を交わす。

指名を喜びチームメイトたちが森山を胸上げ、10月20日、専大伊勢原体育寮。撮影・富樫幸恵(文2)



日高義博理事長(左)、佐々木重人学長(右)、球団関係者と森山(中央)=11月2日、神田キャンパス。撮影・富樫幸恵(文2)

「またスタートラインに立たばかり」と齋藤監督が話す通り、プロの世界は入ってからが勝負となる。これから厳しい世界へ臨むことになるが必ず専大で培ったものが生きてくるだろう。森山が北の大地で活躍する姿が待ち遠しい。

野球部OBの池田駿さん(平27商)投手)は、読売ジャイアンツから4位指名を受けた。池田さんは社会人野球の日本選手権(10月29日)11月8日、大阪市・京セラドーム)でMVPに輝く好投を見せ、初優勝に貢献。左腕から繰り出す切れ味鋭い変化球を武器に、プロのマウンドに挑む。

(大河原佳也・文2)

河名真寿斗(文4・三次高)写真)が71kg級で優勝。「自分がやりたいレスリングができた」と満足げに振り返った。今大会では59kg級で桑山裕貴(商2・中津商)高)が2位。75kg級で松尾侑亮(商3・いなべ総合学園高)、85kg級で与那覇竜太(経営4・浦添工高)がともに3位となるなど計6人が入賞。専大レスリング部の厚さを見せつけた。

河名は8月の全日本学生選手権ではグレコ59kg級で優勝していた。しかし今大会は59kg級を桑山に任せ、階級を変更して臨んだ。周りから多くの不安の声を耳にしたという。しかし、もともと大きな選手と練習していたことに加え、「相手が大きくなることで、投げ技をかけるスペースが広がり、スタンドで点を重ねることができた」と利点を話した。実際に準々決勝はフォール勝ち、それ

71kg級 河名が優勝

6人入賞の活躍

尾侑亮(商3・いなべ総合学園高)、85kg級で与那覇竜太(経営4・浦添工高)がともに3位となるなど計6人が入賞。専大レスリング部の厚さを見せつけた。

河名は8月の全日本学生選手権ではグレコ59kg級で優勝していた。しかし今大会は59kg級を桑山に任せ、階級を変更して臨んだ。周りから多くの不安の声を耳にしたという。しかし、もともと大きな選手と練習していたことに加え、「相手が大きくなることで、投げ技をかけるスペースが広がり、スタンドで点を重ねることができた」と利点を話した。実際に準々決勝はフォール勝ち、それ

三部が新人選手賞 安藤とともに3位

野市・真島総合スポーツアリーナ(ホワイティング)

男子シングルスで三部航平(商1・青森山田高)が3位に入賞し、新人選手賞を獲得した。

女子シングルスでは安藤みなみ(商2・慶誠高)が3位。専大勢は男女合わせてシングルス7人、ダブルス3組がランキング(シングルス・ベスト16以上、ダブルス・ベスト8以上)入りし、全日本学生選抜選手権(11月26、27日、千葉県流山市・キッコーマンアリーナ)の出場権を獲得した。

大会を振り返って「ランキングに入るのが目標だったので、ベスト4入りはうれしい」と話した。

そのほかの主な入賞者は次の通り。

【男子シングルス】郡山北斗(経営2・関西高) 4位 【同ダブルス】田中博巳(経営3・明德義塾高)・田添豊(商2・希望が丘高) ペア4位 【女子ダブルス】鈴木李茄(商4・青森山田高)・安藤ペア5位 (富樫幸恵・文2)

相手の隙をバックハンドで狙う三部は撮影・木村健人(商3)

土屋念願のV

全日本スピードスケート距離別選手権10月21、23日、長野市・オリンピック記念アリーナ(エムウエーブ)

専大から8人が出場し、土屋長輔(経営4・姫路高)が1万5000分32秒66で滑り、念願の初優勝を果たした。

土屋は5000分前で、近藤太郎(経営4・駒大附小牧高)が1500分ほどで2位。土屋はチームパシエートを含め

「後半はタイムを上げようとして、焦ってしまっ」と反省もあったが、2位に8秒近い差をつけての快勝に、「優勝できた本当にうれしい。1万円は自信があった」と晴やかな表情を見せた。

近藤は得意の中距離での入賞に「イメージ通りの滑りができた。これからきっかけをつかめるレースだった」と手応えをつかんだようだった。

土屋、近藤は小川翔也(文4・池田高)とともにユニバーシアード冬季大会(2017年1月29日)、カザフスタン・アルマティ)の日本代表にも選ばれている。世界を舞台にした大会でも、力強い滑りを見せてくれるだろう。

(飛田翼・文2)写真



安定したスケータリングで1万円を制した土屋



三部は準決勝で明大・滝澤拓真選手と対戦。セットカウントを2-1とされたながらも、第6セットを13-11で取り返し、最終セットに持ち込む。お互い譲らないラリーが続く場面もあったが、相手の勢いに押され、台の後ろに下がってのプレーが多く見られた。痛恨のサーブミスでマッチポイントを与えると、最後は相手に打ち込まれ、8-11でセットを落とし、3-4で試合に敗れた。